

令和7年度

総務文教常任委員会 行政視察報告書

1 視察日程 令和8年1月28日～29日

2 視察先、視察内容

新潟県上越市 1月28日（水）

小木直江津航路について

- ・ 航路に関する両所管常任委員会委員による意見交換

3 参加委員

坂下善英、平田和太龍

中川直美、駒形信雄、荒井眞理、山田伸之、
林 純一、金田淳一 （随員 池 秀和）

[上越市議会と小木－直江津航路に関する研修・意見交換会]

1. 実施目的

小木－直江津航路の現状と課題について理解を深めるとともに、上越市議会との意見交換を通じて、航路の維持・活性化および観光・経済連携の可能性を探ることを目的として、研修と意見交換会を実施した。

2. 研修・説明内容の概要

(1) 小木－直江津航路の輸送実績

- ・ コロナ前（令和元年）約12万人 → コロナ禍で大幅減少
- ・ 令和7年度は約8万7千人まで回復
- ・ 利用ピークはGW・お盆に集中しており、通年利用の底上げが課題

(2) 利用促進に向けた上越市の取組

- ・ 上越市民割（往復利用への補助）
- ・ 日帰り・宿泊バスツアー支援
- ・ 夜行便到着後のジャンボタクシー運行支援（新幹線接続確保）
- ・ 地元事業者と連携した割引・特典提供
- ・ 観光イベントや交流事業を通じた関係人口の創出

(3) 佐渡市・上越市観光連携の取組

- ・ 「佐渡市・上越市観光・航路連携協議会」による共同事業
- ・ 広域パンフレット作成、SNS・メディアPR
- ・ 団体旅行造成への補助（宿泊型を重視）
- ・ 上越・妙高・糸魚川との広域連携による宿泊促進事業



3. 意見交換での主な論点

(1) こがね丸導入と行政支援の評価

- ・ こがね丸導入に対し、国の制度を活用した行政支援が行われている
- ・ 一方で、当初期待された冬季一隻体制の実現には至っておらず、行政目標の達成度や今後の評価・検証の必要性が共有された
- ・ 次期カーフェリー導入を見据えた中長期的な議論の重要性を確認

(2) 情報共有と関係自治体の関与

- ・ 民間会社化後の経営情報公開の制約はあるものの、関係自治体との協議会を通じた定期的な情報交換が行われている
- ・ 議会としても、より実態を把握できる仕組みづくりが課題

(3) 航路ダイヤと交流促進の課題

- ・ 現行ダイヤでは佐渡からの日帰りや人的交流が困難
- ・ 観光・交流を促進するには「乗りたくても乗れない」構造をどう改善するかが大きな課題
- ・ 小木一直江津航路単体ではなく、両津一新潟港路を含めた広域的な航路活用の可能性について意見交換

(4) 世界遺産登録を踏まえた今後の展望

- ・ 佐渡金山の世界遺産登録は大きな機会であるが、宿泊施設不足などにより受け入れ体制に課題がある
- ・ 佐渡に泊まれない観光客を上越側で受け止めるなど、両市が補完し合う関係づくりの重要性が共有された

4. 研修・意見交換を通じた共通認識

- ・ 小木一直江津航路は生活路線・観光路線・災害時代替路線として重要な役割を担っている
- ・ 単なる赤字補填ではなく、航路を活かした交流・経済効果の創出が今後の鍵
- ・ 人数だけでなく、宿泊数・再訪・地域消費など、成果を「見える化」する指標づくりが必要
- ・ 佐渡市・上越市両議会が継続的に課題を共有し、発展的な視点で連携していくことが重要

5. 所感

今回の研修・視察・意見交換会は、委員会同士が率直に課題を共有し、航路の将来を「守る」だけでなく「活かす」視点で議論できた点で非常に意義深いものであった。

今後は、行政任せにせず、議会としても継続的に検証と提言を行い、小木一直江津航路の持続可能な運営と、佐渡・上越双方の地域活性化につなげていく必要がある。

